

つながり 楽しむ 手づくりのまちづくり

みんなでまちづくりを進めるための 協働ガイドライン (案)



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



令和〇年〇月
富 谷 市

目次

1. ガイドラインの目的 P1
 - (1)ガイドラインのねらい(趣旨)
 - (2)富谷市が目指す協働のまちづくり

2. 現状と課題 P2
 - (1)市の現状
 - (2)市民の活動の現状
 - (3)これから求められること (課題)

3. 協働についての基本的な考え方 P5
 - (1)「協働」とは
 - ～多様なつながりで磨く富谷の協働～
 - ～まちづくりに関わる主体の特性～
 - (2)協働のかたち
 - (3)協働の進め方
 - (4)協働を進めるうえで配慮すること
 - (5)市と協働する場合の活動範囲

4. 協働の推進に向けて P13
 - (1)方針
 - (2)推進に向けた取組

- ◇ 参考資料 P15
 1. 総合計画(概要)
 2. 本市における市民協働の取組
 3. 本市における市民協働に関する現況
 4. 策定までの経過
 5. 富谷市協働のまちづくり推進審議会
 6. 用語解説

1. ガイドラインの目的

(1) ガイドラインのねらい (趣旨)

まちづくりには色々な立場の人がかかわっています。
みんなで楽しく、住みよいまちをつくっていきましょう。



富谷市では、2016年の市制移行を機に、同じ目的のために、役割を分担し、市(市役所等)と市民、または市民どうしなどが共に協力して活動する「協働」の手法を再認識して、市民の思いや活動を活かしながら、よりよいまちづくりを進めていこうという機運や取組がこれまでも増して高まってきています。

このような中、まちづくりに関わる市民や団体、企業、市などが、よりよいまちにしたいという思いを一つにし、共に力を合わせ、まちづくりに取り組むための考え方や方向性を具体的に示すものが必要となってきました。

このことから、市民や団体、企業、市などが、共にまちづくりに取り組むための具体的な考え方や方向性をみんなで共有することを目的とした、わかりやすいガイドライン(指針)を考え、つくことにしました。

(2) 富谷市が目指す協働のまちづくり

富谷市にかかわる全ての人が、まちを愛し、力を合わせて、日本一の住みたくなるまちをつくっていきましょう。



富谷市では、富谷市総合計画基本構想において、「住みたくなるまち日本一」を目指し、健全なまちづくりに向けて、市民みんなが協働するまちづくりを実現することを目標にしています。都市化が進み成長を続けている中で、まちの魅力と持続可能性を高め、少子高齢化や災害発生時などの社会の変化に柔軟に対応していくため、世代や立場を超えた多様な人々がつながり、みんなの知恵と力を活かす「オールとみや」の体制で、誰もが「住みたくなる」、そして将来にわたって「住み続けたいくなる」まちづくりを進めていきます。

2. 現状と課題

(1) 市の現状

- ①全国的な少子高齢化により社会を支える仕組みが変わってきています。本市においては、地域活力の低下が懸念される地域もありますが、地域を支える幅広い活動に多くの方が活躍している地域もあります。
- ②社会環境の変化に伴い、地域の課題や市民のニーズ(要望)が多様化、複雑化しています。
- ③市が十分に財源と職員を確保し、全ての課題やニーズを担っていくことが難しくなっています。一方、長年にわたり行われている地域の課題を解決する市民の活動は、広がりや厚みを増してきています。
- ④ゆるやかながらも人口増加を続けている中で、男女、世代を問わず多くの市民が様々な分野で活躍しています。
- ⑤平均年齢(40.9 歳)が東北一若く、子どもや子育て世代が多い一方、元気な高齢者が多い現状にあります。
- ⑥ユネスコ憲章に基づく ESD(持続可能な開発のための教育)の推進、日本ユニセフが推進する子どもにやさしいまちづくり、プラチナ社会の実現に向けた取組、SDGs(持続可能な開発目標)の推進など、グローバル(世界的)な視点に立った取組を進めています。

(2) 市民の活動の現状

- ①町内会館を拠点とし、町内会を中核とした地域コミュニティ活動が活発に行われ、まちづくりの重要な役割を担っています。また、近年、町内会館等において様々な交流事業が展開されています。
- ②公民館、富谷市ボランティアセンターなどを拠点に、福祉、教育、地域おこしなど様々な分野において、地域の課題を解決する市民の自主的、自発的な活動が活発に行われています。
- ③新たな市民の活動拠点として、富谷市まちづくり産業交流プラザ(とみぶら)が2018年に新設され、「富谷塾」塾生によるコミュニティビジネス・ソーシャルビジネス等を通じた地域の課題を解決する活動が芽生え、広がっています。
- ④地域福祉の推進や新たな特産品づくりなどにおいて、社会福祉協議会、シルバー人材センターなどの公益法人や、NPO（特定非営利活動）法人との連携が進んでいます。

(3) これから求められること（課題）

①市民の意識を高めていくことが必要です。

- ア. 市でできること、市民ができることをみんなで理解していくこと。
- イ. 市が実施していた事業を市民が代わって主体的に行っている事例もあり、市民発の事業を増やしていくこと。
- ウ. まちづくりを担っているという意識がないまま参加している人もいるので、そのような人たちに自分もまちづくりに参加していると理解してもらおうこと。

②多くの市民をまきこみながら、市民の活動をより活発にし、持続可能な活動にしていくことが必要です。

- ア. 市民が主体となって実施、活動するための仕組み。
- イ. 市や地域の事業に主体的に参加する市民を増やしていくこと。
- ウ. 町内会加入につながる取組や担い手を増やしていくこと。
- エ. 活動を継続していくための課題を一緒に考える場。
- オ. 様々な世代のつながり。
- カ. 地域のキーパーソン(中心となる人)を増やしていくこと。
- キ. 制約やしがらみ、強制的な参加がおっくうに感じ、団体に属さないで活動する人が増えているので、活動にゆるやかさを持つこと。

③市民と市のつながりをもっとよくしていくことが必要です。

- ア. 市民と市が同じ目線に立って話ができる仕組み。
- イ. 互いを理解し、気づかいながら、良い関係を築いていくこと。
- ウ. 総合計画に示されている富谷市のまちづくり及び将来像を市民も共有し、活動に生かしていくこと。

④市は多くの意見を集め、市民に伝え、市民と共に取り組んでいくことが必要です。

- ア. 市は様々な意見を集め、それをとりまとめて形にしていくこと。
- イ. 市は市民の自主的・自発的な活動をまきこみながら、事業等を発展させていくこと。
- ウ. 市民は市の課題がわからないこともあるので、市はわかりやすく市民に示すこと。
- エ. 市は市民にお願いするだけでなく、共に歩む姿勢を持つこと。

3.協働についての基本的な考え方

(1)「協働」とは

協働は、色々な立場の人たちが、同じ目的のために、役割を分担し、お互いを尊重しながら、協力して活動することです。



市民、公益的な活動(公共の利益につながる活動)を行う団体や公益法人、事業者、市など、異なる性格を持つ組織・集団が、同じ目的のために役割を分担し、お互いを尊重しながら、同じ目線に立って、連携・協力しあうことをいいます。

また、協働は、課題を解決するための一つの方法として捉えてくることが大切であり、様々な結びつきから、人と人のつながりを広げていくことが、協働の取組の基本となります。

～身近なところですでに始まっている富谷の「協働」～

「協働」とは、何か全く新しい活動をしていこうというものではなく、これまでの地域活動や市民活動などの延長線上にある取り組みです。

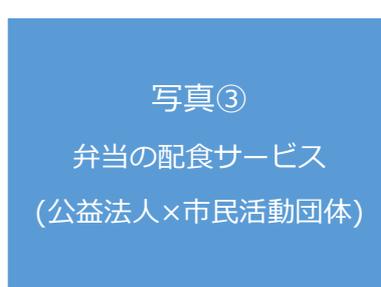
すでに市民にとって身近な分野、関心のある分野からあちこちで始まっています。



町内会による環境美化活動



地域交流の場「街かどカフェ」



写真③
弁当の配食サービス
(公益法人×市民活動団体)



コミュニティの場としての子ども食堂



西成田地区コミュニティ大運動会



地域・学校・家庭をつなぐ取組



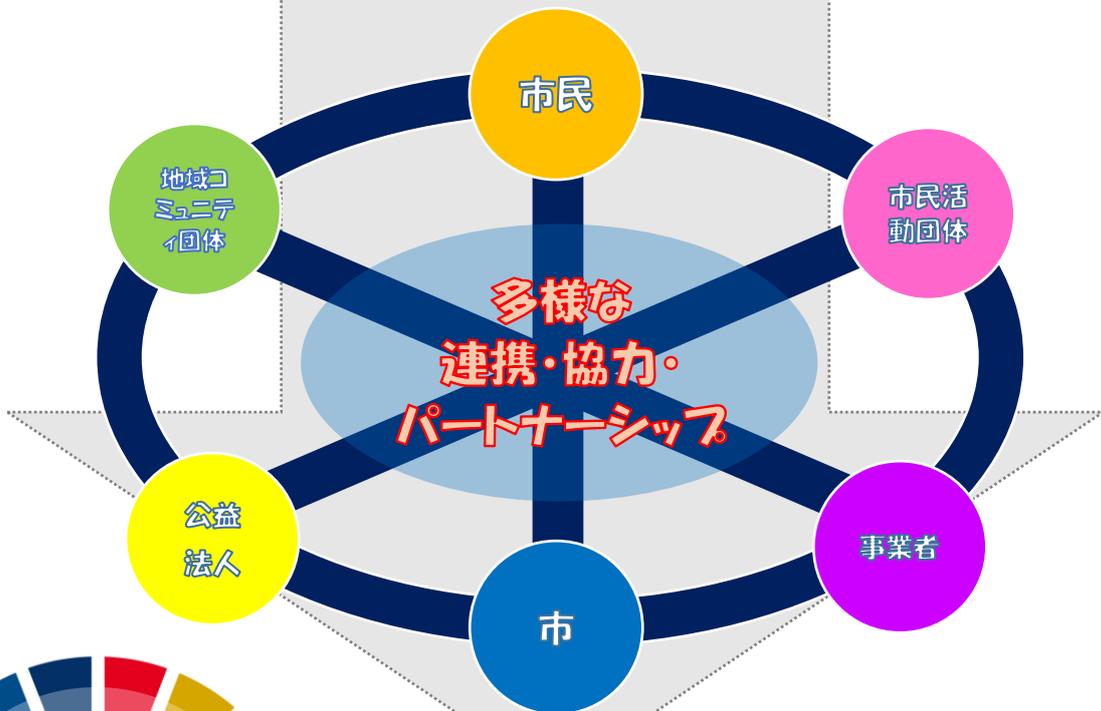
～多様なつながりで磨く富谷の協働～

富谷が大好き!
これからも住み
よいまちを持続
したい!! (^O^)

まちづくりに関わる多様な主体(人・集団・組織)



単独の主体では解決できない課題や
連携・協力した方が良い結果となる課題に対して
多様な主体が協働して取り組む



- ・様々な課題を解決する
- ・社会の変化に対応するまちの力を高める

★「とみやインパクト」は、複数の主体が協力して課題に取り組んだ結果、単独の主体で取り組むよりも効果があったことを意味しています。

～まちづくりに関わる主体の特性～

組織・集団名称	特性
 <p>町内会、連合町内会、子ども会育成会、地区コミュニティ協議会、PTA など</p>	<p>一定の地域内における住民どうしのつながりをつくり、お互いに助け合いながら、自主的・自立的に地域の課題解決に取り組んでいます。なかでも町内会は、地縁団体ともいわれ、市町村長から認可を受け法人化した地縁団体を認可地縁団体といいます。</p>
 <p>任意の N P O ・ボランティア団体、ジュニアリーダーなど</p>	<p>主に住民等で構成される団体で、自主的・自立的に地域の課題解決に取り組んでいます。専門性、機動性、先駆性などの特性があります。また、N P O は、民間非営利組織などといわれます。</p>
 <p>社団法人、財団法人、学校法人、社会福祉法人、N P O 法人など</p>	<p>専門家の知識を集約することができ、公益性や専門性が高い特性があります。富谷市には、「社会福祉法人富谷市社会福祉協議会」や「公益社団法人富谷市シルバー人材センター」をはじめ、幼稚園・保育園、福祉施設などを運営している公益法人があります。また、法律に基づき法人化した N P O を N P O 法人（特定非営利活動法人）といいます。</p>
 <p>企業、事業所等</p>	<p>主に営利を目的に経済活動をしていますが、地域と連携した社会貢献活動も行っています。専門性・機動性、先駆性などの特性があります。</p>
 <p>富谷市(行政)</p>	<p>公平性・平等性が原則であり、サービスの範囲は市域内に限定されます。法令・施策に基づき行動することから、画一的になりがちですが、信頼性と安心感を提供することができます。</p>

(2) 協働のかたち

協働には様々なかたちがあります。富谷市でも様々なかたちの協働が行われています。



『成田地区 地域との防災教育活動』

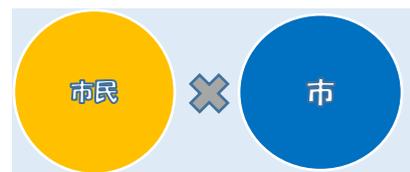


〔取組内容〕

〔とみやインパクト(協働の効果)〕



『富谷塾生の活動』

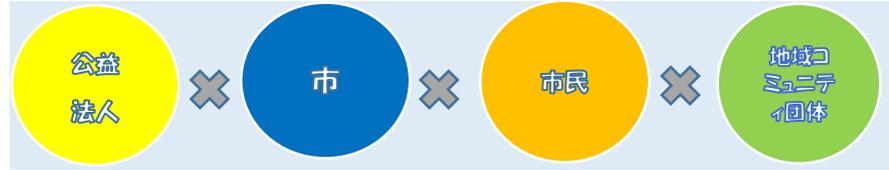


〔取組内容〕

〔とみやインパクト(協働の効果)〕



「とみやはちみつプロジェクト」

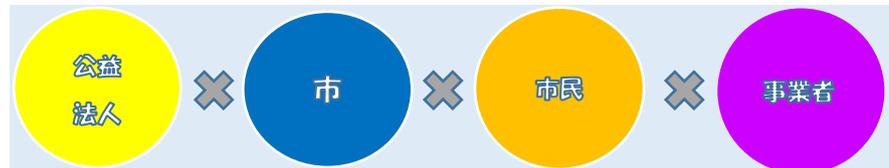


〔取組内容〕

〔とみやインパクト(協働の効果)〕



「富谷茶復活プロジェクト」



〔取組内容〕

〔とみやインパクト(協働の効果)〕

(3) 協働の進め方

きっかけ

まち・地域をよくするために誰かと協力して取り組みたいことがある



- まち・地域をよくするために何かやってみようという気持ちを大切にする
- 広報、ホームページ、SNSなどで情報収集してみる
- わからないことや困ったことがあれば市役所等に相談してみる

土台づくり①

お互いを知る
・ つながる

ポイント



- 地域に関心を持ち、地域の活動に積極的に参加する
- お互いを知り、つながる場に参加してみる
- 必要な情報を収集・発信する

土台づくり②

共感する
・ 目的を共有する

ポイント



- 身近な場所で気軽に対話し、課題や気づきを共有する
- それぞれの中で芽生えたものを伝え、語り合い、互いの想いを言葉にする
- 共感を通して信頼関係を築く

一歩ふみだす

一緒にやってみる！



- 志を同じくする仲間と一緒に活動してみる
- 活動できる時間はひとそれぞれ、無理しないで気軽に参加できる雰囲気大切にする
- お互いを認め合って、互いにサポートし合う

進化と発展

振り返る
・ 新たな気持ちが生まれる



- 活動の成果を話し合い、今後の活動に生かす
- 他の団体や活動などの良い点を取り入れる
- 自分たちの活動を市や市民へ広く発信する
- 課題が共通している他の主体とも連携してみる

この循環はやがて地域の文化、雰囲気、財産になっていく

(4) 協働を進めるうえで配慮すること

協働をみんなで楽しみながら進めていくためのポイントです。
お互いの特性を理解しあってゆるやかなつながりながら取組んでいきましょう。

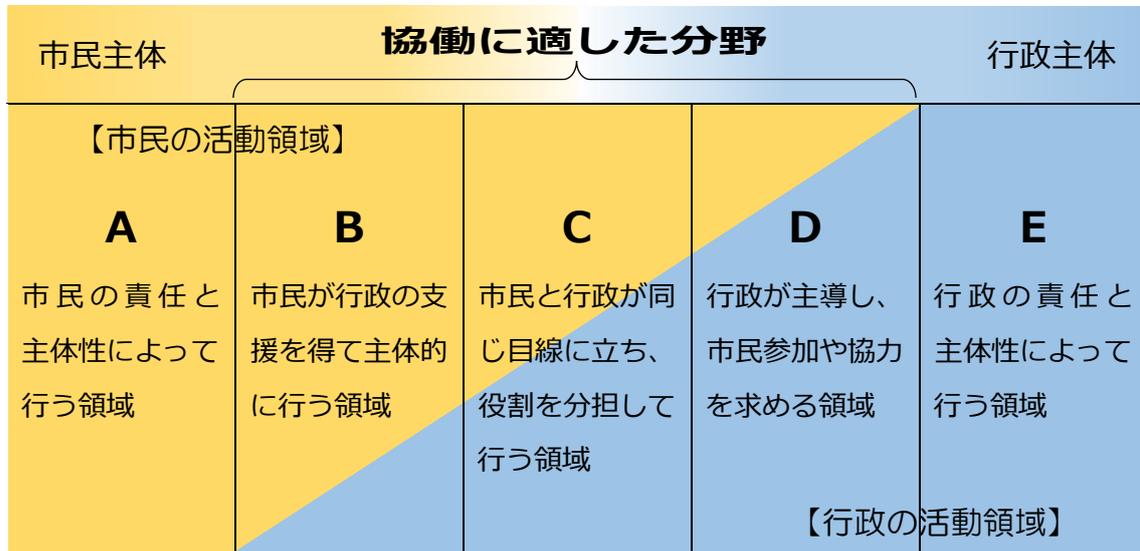


- ①目的を共有し、楽しく、無理なく、ゆるやかなつながりと風とおしのいい活動を心がけましょう。
- ②情報を共有し、対話や様々な手段での話し合いを重ね、お互いを知ること
で共感と信頼関係を深めましょう。
- ③それぞれの役割及び責務を理解し、お互いが同じ目線に立って協力するパートナーであることを認めあいましょう。
- ④お互いの特性の違い、自主性及び自立性を尊重しましょう。
- ⑤年齢、性別、国籍、心身の状況、社会的及び経済的な状況の違い等に配慮するなど、一人ひとりの個性を尊重しましょう。

(5) 市と協働する場合の活動範囲

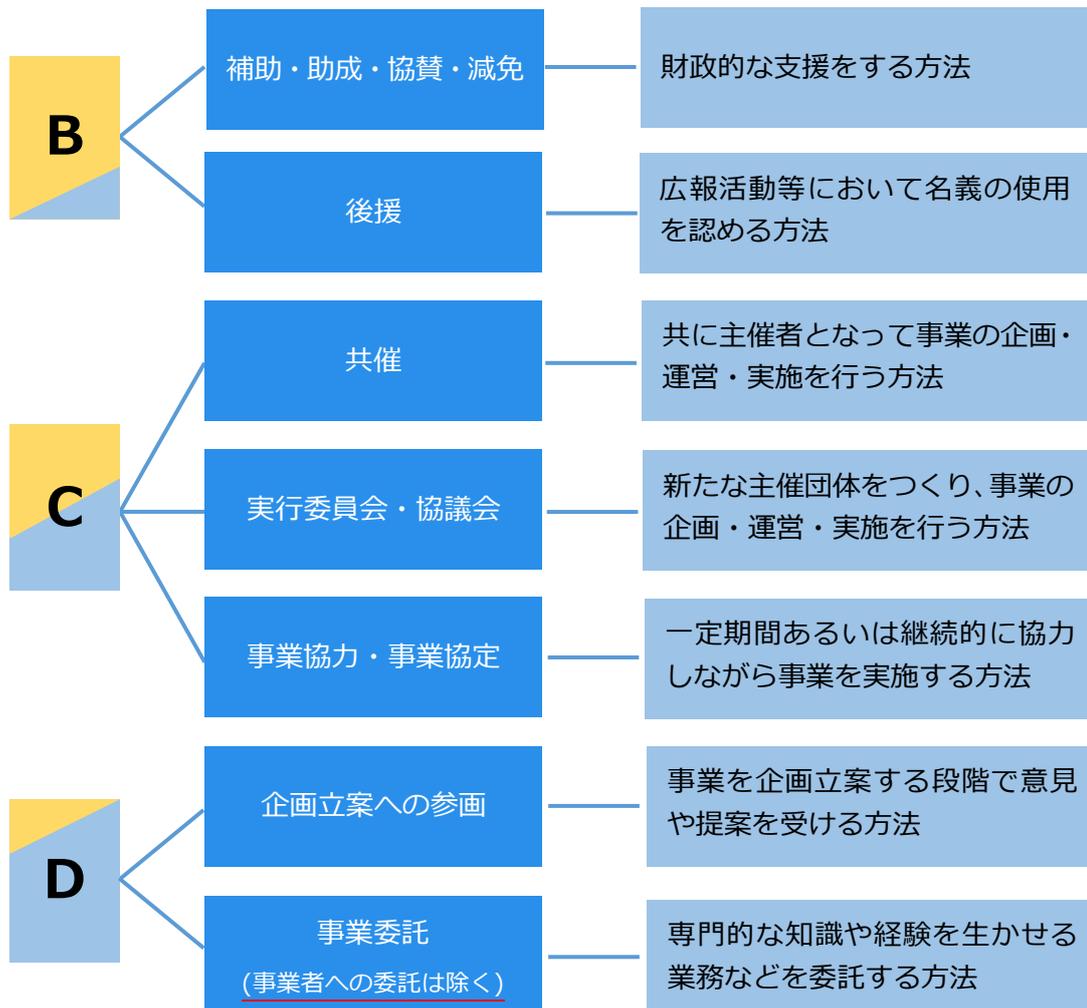
市と協働する場合、協働に適している活動の範囲は次のとおりです。

<協働の領域図>



〔出典：仙台市発行「協働まちづくりの手引き」の図を富谷市により一部改編〕

<主な協働のかたち>



4.協働の推進に向けて

(1) 方針

①地域コミュニティ活動を推進します。

わたしたちは、町内会などの地域コミュニティの重要性を認識し、地域の中でゆるやかなつながりを維持しながら、持っている力を発揮し、災害が発生したり、困ったときなどに互いに助け合い、支え合うことにより、誰もが暮らしやすい地域をつくります。

②交流を推進します。

わたしたちは、お互いの理解を深めるため、新しい生活様式に対応した集会やインターネットの活用など様々な手段を用いて多様な主体の積極的な交流に努めます。また、協働のまちづくりを推進するためのネットワークの構築に努めます。

③まちづくりを担う人材を育成します。

わたしたちは、まちづくりの主役は市民であるという思いを共有し、まちづくりを担う人材の育成に努めます。また、その目的を達成するため、次世代と活動を共にしながら引き継いでいくことや学習する機会と場を設けるよう努めます。

④とみやを愛し、自発的に活動する子どもたちを育成します。

わたしたちは、子どもたちをまちづくりの担い手として尊重し、健やかに成長することのできる環境づくりに努めます。また、様々な体験と交流を通じて、郷土を愛し、自発的に地域社会に貢献する子どもの育成に努めながら、子どもたちに富谷のよさを感じてもらい、伝えていきます。

⑤情報を共有します。

わたしたちは、協働するための情報を積極的に受信し、全世代に発信するよう努めます。また、対話をはじめ様々な手段を通じて、相互に交流及び協働するための情報の共有に努めます。

(2) 推進に向けた取組

協働のまちづくりを進めていくため、それぞれの考えを持ち寄り、得意なことで力を出し合いながらみんなで取り組んでいきましょう。



① 多様な主体による協働を推進するための体制をつくります。

- ア. 協働のまちづくり推進審議会の設置
- イ. 市役所内の連携と風とおしのよい活気ある職場風土の構築
- ウ. 職員研修の実施
- エ. 市民の活動を支援する既存の組織等の連携強化
- オ. 市民の活動を総合的に支援する新たな組織等の検討
- カ. 協働の推進状況や時代の変化に対応した指針の整備

② 情報発信を充実し、学び・交流の機会と場をつくります。

- ア. 広報、ホームページ、SNS 等による情報発信の充実
- イ. 学び・交流の機会と場の提供

③ 市民が活動しやすい環境をつくります。

- ア. 相談窓口の充実
- イ. 既存の制度を含め、より使いやすい支援制度の検討
- ウ. 地域の拠点の整備
- エ. 子どもや若い世代が意見、活動しやすい場の提供
- オ. 市民の活動の場となる公共施設をより利用しやすくするための検討

④ 活躍する市民を増やします。

- ア. 主体的に活動する人材の育成
- イ. 中間支援できる人材の育成
- ウ. 郷土を愛する子どもの育成
- エ. 「富谷塾」など市民の活躍を育成支援する仕組みの充実

◇ 参考資料

1. 総合計画(概要)

2.本市における市民協働の取組

3.本市における市民協働に関する現況

4.策定までの経過

5.富谷市協働のまちづくり推進審議会

7. 用語解説

